

博報財団 第13回「博報日本研究フェローシップ」成果報告書

I. 研究成果概要

氏名(フリガナ) 在住国名	劉 佳琦 (リュウ カキ) 中国
所属・役職	復旦大学 外国語文学学院 日語語言文学系 准教授、副主任
招聘回(招聘研究期間)	第13回(2018年9月1日～2019年8月31日)
受入機関	早稲田大学
招聘研究テーマ	中国語母語話者における日本語音声習得の実証的研究 —知覚と生成の相関性を中心に—
研究目的	中国語母語話者を対象とした日本語有声・無声破裂音の知覚および生成調査を行い、動態的な習得特徴、知覚と生成の相関性を明らかにする。現存の言語習得理論モデルの発展に貢献し、日本語音声教育の改善に提言する。
研究成果概要	
<p>1. どのように研究を進めたか(具体的に)</p> <p>1)初級学習者における日本語の有声・無声破裂音の知覚と生成の習得プロセスを調査し、知覚と生成の関係性を分析した。具体的に以下ようになる。</p> <p>今回は日本語学習者20名、日本語母語話者24名を対象に、有声・無声破裂音の知覚と生成調査を行った。日本語学習者を対象として、学習開始から一年のうち、中国語・英語・日本語の知覚調査、生成調査、フォローアップ・インタビューを計6回行った。日本語母語話者を対象として、知覚刺激語の採取、日本語知覚と生成調査を行った。知覚調査は音響分析ソフトPraat ExperimentMFC 6で実施した。アノテーションはSPPASとPraatを使用し、音響パラメーター(VOTとGAP)は手動で確認した。データの整理、統計分析、視覚化はRを用いた。</p> <p>2)実験音声学の理念と方法をいかした日本語音声教育の実践法を検討した。</p> <p>3)ナラティブという質的研究法を用いて、中国の大学における日本語教師の現状と発展について研究した。</p>	
<p>2. 研究によりどのような知見が得られたか(具体的に)</p> <p>1) 理論的知見:まず学習者は動態的なプロセスを経て外国語音声を習得している。次に音声知覚と生成の習得特徴とプロセスが異なっている。最後に知覚と生成習得は必ずしも相関性が存在するわけではない。</p> <p>2) 教育的知見:まず母語と目標言語の“類似点”と“相違点”について、明示的な指導が必要である。次に知覚と生成の習得特徴とプロセスが異なっているため、分けて指導する必要がある。</p>	
<p>3. 研究成果(予定を含む)</p> <p>○論文(題目, 掲載誌, 発行者, 掲載月, 内容の概略(200字以内))</p> <p>(1)「第三言語としての日本語破裂音の知覚習得について」『早稲田日本語教育学』早稲田大学 26号</p> <p>(2)「中国学習者の第三语言塞音感知实验研究——一项基于感知模型的分析」『复旦外国语言文学论丛』復旦大学 1号 中文社会科学引文索引(CSSCI)、共著(第二作者)</p> <p>(3)「基于声学分析技术的日语语音教学研究」『教与学』復旦大学教師發展委員會発行 2号</p> <p>(4)「日语音段的可视化教学研究-基于中介语理论与实验语音学方法」『日语学习与研究』4号 中文社会科学引文索引(CSSCI)</p>	

- (5) 「日本語音教学的实践及展望-理论、方法与成果」『高等日语教育』1号 外语教学与研究出版社
- (6) 『语音认知机制与日语语音教学』新星出版社(2019 予定)
- (7) Challenges in multi-language pronunciation education: A cross-linguistic study of Chinese students' perception of voiced and voiceless stops, *Circle of Applied Linguistics for Communication(SSCI)*(2019 年9月予定)、共著(第一作者)
- (8) You must keep above the waterline or you'd drown: An autoethnographic account of a Chinese researcher's multilingual practices. In B. Samuelson. & S. Silvhiany. (Eds.). *Learning to Do Research Multilingually*.(修正採用)、共著(第一作者)
- (9)『当代中国日语研究(1979-2019)』『日語語音学研究』を担当、商務出版社(2021 年出版予定)
 ○口頭発表(題目, イベントの名称, 日・場所, 内容の概略(200字以内))

・講演

- (1) 劉佳琦(2018)「音声学と外国語音声習得—音声の不思議な世界へご招待」招聘講演、2018.11.29 日東洋大学白山キャンパス
- (2) 劉佳琦(2019)「中国の大学における日本語教師のキャリア・デベロップメント—私の挫折、チャレンジ、成果—」招聘講演、2019.7.11 早稲田大学早稲田キャンパス

・口頭発表

- (1) 「中国共通語話者による第三言語の語頭破裂音の知覚習得について」日本音声学学会第 32 回全国大会 2018.9.15 沖縄国際大学
- (2) 「第三言語(日本語とスペイン語)の語頭破裂音の知覚習得について」東京音声研究会 2018.10.13 明治大学
- (3) 「多言語背景における第二外国語としての日本語破裂音の習得研究」第 12 回国際日本語教育及び日本研究シンポジウム 2018.12.8 香港理工大学
- (4) 「多言語背景における日本語破裂音の知覚と生成」東京音声研究会 2019.7.13 明治大学

○その他の活動

・ゲストスピーカー

- (1) 早稲田大学大学院日本語教育研究科「音声音韻論」に複数回参加;
- (2) The guest presenter in Prof. Kondo's seminar, Graduate School of International Culture and Communication Studies (GSICCS), Waseda University, Dec. 3, 2018.

・オンデマンド・コースの完成と運営:

劉佳琦(2019)『日語語音学』<https://mooc1-1.chaoxing.com/course/200143063.html>

復旦大学重点科目に採択され、現在は一般公開中です。アクセス数は累計 7270 上りました。

4. 今後の活動予定

- (1) 上述の著書と論文を完成させる。滞在中の研究成果を中国における日本語教育現場に還元する。
- (2) 今回の滞日中、中国語を母語とする日本語初級学習者の協力者数が思うように集まらず、実験組の形成ができなかった。今後、日本滞在歴という習得の外的要因および多言語の学習経験という内的要因を明らかにするため、引き続き調査協力者の確保に努めたい。
- (3) 中国語母語話者を対象とした日本語超分節単位の習得特徴とプロセスを明らかにしていきたい。
- (4) 中国国家競争型研究費『中国人日本語学習者を対象とした中間言語音声コーパスの構築と応用』(代表者:劉佳琦)プロジェクトを遂行し、完成させる。